



P2 / 会長挨拶
 WASLI会長
 デブラ・ラッセルより
 WASLIの最新の活動



P8 / レポート
 WASLI名誉会長
 リズ・スコット・ギブソン
 イラン訪問報告



P10 / インタビュー
 リズ・メンドーサ
 通訳者養成会議(CIT)会長
 レスリー・グリアとの対談



P13 / イベント
 ろうコミュニティ、
 手話研究、
 翻訳通訳研究についての
 最新行事予定

WASLI newsletter.

no. 7 / 2018



WASLI
**OCEANIA
 CONFERENCE**
 NO INTERPRETER IS AN ISLAND.
 FIJI ★ 17 - 19 AUG 2018

南太平洋フィジーの美しい島々：太陽、暖かい気候、青々と茂った熱帯の樹々、ターコイズブルーのきらめく海、プールサイドのカクテル、笑顔でフィジー語で「プラ！」とあいさつ。

オセアニア手話通訳者会議の開催にこれ以上の場所がありますか？(詳細はp.4をご覧ください)

会長の挨拶

デブラ・ラッセル

親愛なる会員ならびに
WASLI 支援者の皆様へ、

このニュースレターを読むといかに多くの通訳者の指導者が世界中でボランティアとして通訳者の養成に関わっているかよくわかります。その指導者のお一人お一人が、我々の共通のゴールに向かって貢献されていることに感謝申し上げます。地域レベルでこの通訳者の支援を得て、WASLI は活動を続けてこられました。そのハイライトのほんの一部は以下のとおりです

WASLI2019 会議の資金集めと新興国の代表団のスポンサー集めは続いています。

WASLI2019 に出席する[北朝鮮] DPRK 通訳者のための資金集めを支援して下さったすべての方々にお礼申し上げます。またクリスチャン・ラスマンのおかげで史上初めて我々の会議にイランの手話通訳者が 2 人出席できます。ベルリンのフンボルト大学にも感謝します。

2019WASLI において国際手話通訳者のサービスをスポンサーして下さいます。もしあなたかあなたの国の協会がスポンサーになってくださるならぜひ連絡お待ちしております！

8 月にはオセアニア地区で歴史が作られました、フィジーのナンディで初めて地域会議が開かれたのです。サモア、ソロモン諸島、キリバス、フィジー、パプアニューギニア、バヌアレブからの手話通訳者と会合し、彼らの様々

なそして複雑な状況でろう社会と仕事する彼らの経験から学ぶことは素晴らしい体験でした。地元フィジーの方々の歓迎は素晴らしく、今回皆様にとって記憶に残る会議にしてくださって本当にありがとうございました。我々のオセアニア代表、アンジェラ・マレイは地元のフィジーろうあ協会や通訳者協会とともに懸命に働いてくださって、素晴らしい発表者から学び、休憩中には交流し、サンセットクルーズでお祝いして、私たちはこれ以上ない素晴らしい時を過ごすことができました。皆さん全てにバナカ(ありがとう)！

リズ・スコット・ギブソンはまた WASLI の代表として 8 月にイランの会議に出席し、ろう者と通訳者の代表団に発表をしました。このニュースレターにある報告を読むと、イランの興味深い洞察がわかるし、2019WASLI に代表団をお迎えするのが楽しみです。

初めての手話言語の国際デーが世界中で熱烈に迎えられました。そして WASLI はジュネーブでの国連イベントに参加し、非常に多くの太平洋諸島の通訳者やろう参加者を特集したビデオを上映できてうれしいです—我々は多様性に富んだ組織であり、あのビデオは確かにその素晴らしい文化的そして言語的多様性を映し出していました！

9 月には才能あるフィンランドのマーカス・アルとともに efsli-DI に訓練をしました。参加者全ての方が大歓迎してくださり、またソフィア・イサリとその同僚の皆さんは大働きでこの訓練を作り

上げて下さいました。お礼申し上げます。Esfli の定例のの総会や会議に参加できたのもよかったです。クロアチア通訳者の皆さん、一生懸命に準備していただいてまたひとつの efsli の行事を成功なさいました。ありがとうございます。WASLI と efsli はロシア手話通訳者連盟 (RASLI) と共同で「手話通訳: 10 月 26 日—27 日の水害」と銘打った会議を開催しました。WASLI のトランスコーカサス地域の代表、アンナ・コマロバとともに WASLI を代表するリトアニアのアルナス・ブラジンスカスに特に感謝いたします。この行事は大成功で、この地域で通訳者という職業を発展させるためのさらに多くの機会が今後あります。

ブラジルとコロンビアで重要な学習行事が行われるので、11 月はワクワクする月でした。私はフロリアノポリスでの言語学及び手話通訳研究会議に参加できてよかったです。800 人以上の参加者ですべての会議が手話、リプラス(ブラジル手話)、国際手話で行われ、研究に基づいた発表、ポスター、ワークショップの素晴らしい 5 日間でした。ブラジルの直後、コロンビア手話通訳者も会議を開催し、この職業を発展するために最良の成果を持ち寄りました。WASLI のフェイスブックやウェブサイトビデオインタビューをご覧になって、ラテンアメリカでの WASLI の歴史、ろう通訳そして国際手話についてよく聞かれる質問をお知りおきください。

アジア地域での素晴らしい機会も11月にあります。ISLIA インドの通訳者協会が創立10周年をお祝いします。WASLIとWFDもこの重要な節目に参加します。リズムにはあらためて感謝です。同時に2か所に行けないとき私の代わりにしてください。我々の名誉会長が遠くまで出かけて我々通訳者の代表として立派にそして懸命に務めてくださるとは。

12月にはWASLIアジア地域会議がWFD地域会議とともにタイで行われます。すべての代表団が有意義な時を過ごされますように。今回は次期アジア地域代表の選出準備を始めるときです。他の地域は2019年1月に始まります。あなたの国協会が会員であれば、次期代表に立候補したり、投票したりする権利があります。まだ会員を更新していなければ、次期代表を選出できるように直ちに更新してください。同様に2019年1月に次期WASLI理事の立候補が始まります。私はパリの会議で会長職を退きます。時期の理事とともに働き、支援するのを楽しみにしています。

これまで数か月間で理事会の注目をひいたのはいくつかあります。国際標準機構ISOが通訳基準について情報が必要だということで、彼らには目新しいことを喜んで提供しました。WFD-WASLI国際手話認定は9月に新しい受験者を受け付けました。今国際手話についてAIICと協議中です。多くの皆さんがWASLI2019に注目してください。会議に参加を計画中的の方々、パリへ大歓迎いたします。出席できない方は他国からの代表団を支援する寄付をお考え下さい。登録、旅費、宿泊費の負担を考えると出席がかなり困難な国がたくさんあります。

どうか仲間の方々とともにアフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海諸国、アジアの代表団のスポンサーとなってください。友人を10人捕まえて、計画を立てます。大小の献金パーティー、あらゆる寄付が役に立ちます。例えばRIDの支部があります。もし各支部が1代表団を支援したらと想像してみてください、グアテマラ、ブラジル、サウジアラビア、アンゴラ、タンザニア、南アフリカ、スーダン、インド、パキスタンなどが世界会議に参加して、どれほど多くのことを学べるかを！代表団への支援が生活を変え、通訳者の学びが母国での通訳の発展に力添えになってきた例はいくらでもあります。

会場はポール・デカルト大学で、地下鉄線の中央に位置します。だから予算に応じてパリのどこでも宿泊を予約できます。会議の日程は2019年7月16日—19日です！

理事会に対してご質問、ご意見はいつでもWASLI会長あてにメールしてください。

president.wasli@gmail.com ボランティアでWASLIを作り続けるお手伝いをしてください。通訳者一人一人に感謝いたします。

どんなご意見でもご質問でも私にメールしてください。

チリで手話通訳者のワークショップ



12月8日と9日、WASLI副会長ジョゼ・エドゥニルス・ジュニオールがチリのバルパライソを訪問し、当地の手話通訳者とうろう者に講演しました。WASLIの世界じゅうでの仕事と次の10年間の課題を話しました。

「チリはWASLIの最新会員のひとつで、ここでWASLIや我々の価値について話すのはうれしいです。同様に重要なのはチリ手話通訳者の仲間に動機づけとなる言葉を語ることです」とジョゼ・エドゥニルスは言った。この活動はチリ手話通訳協会(AILES Chile)によって推進され、チリろう協会(ASOCH)、聴覚障害者研究センター、そしてプラヤ・アンチャ大学の支援を受けている。



WASLIオセアニア会議2018年 美しいフィジー島から素晴らしい思い出

フィジーは2018年8月17日—19日に行われた史上初のWASLIオセアニア地域会議の会場となった。この地域内外の14カ国から138人の代表団を迎えて大感激だった。参加国はフィジー、サモア、ソロモン諸島、キリバス、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド、東ティモール、カナダ、イングランド、アメリカ、ブラジル、香港、マレーシアだった。

WASLIオセアニア会議を組織・運営することは厳しかったが報われる経験だった。(会議委員会は3カ国に分かれていた)。私のチームの皆さん、とりわけ会議の共同議長、スーザン・エマソン、お疲れさまでした。会議に先立ってWASLI理事会はフィジー出席者と対面でまたインターネット経由で他の人々と話した。また会議の前に、ナイジェル・ハワードとスーザン・エマソンが国際手話で無料の2時間ワークショップをしてくださった。その夜開会行事で行われる予定の一部を参加者は感じ取れたと思う。会議は地元フィジーろう者のリードでカバセレモニーで始まった。カバはわずかに麻酔効果のある飲み物で地域特有の植物の根から作られ叩いて粉状にし、水と混ぜ合わせたものだ。伝統的なフィジーの歓迎式典でココヤシの殻に入れられて客の間で回し飲みされる。カバをふるまわれるときに、光栄にも私は基調講演のデブラ・ラッセルとナイジェル・ハワード、そしてフィジーろう協会会長のジル・テモと並んで座っていた。カバセレモニーの終了と同時に訪問者と受け入れ者が一つになって同じ目的に向かって努力することになった。会議のテーマは「どの通訳者も島ではない」仕事で孤独を感じたとしても、あなたがつながり、協働し、資料や知識を分かち合う他の通訳者やろう者がいるということを強調している。会議を通じて、全く違う島出身の通訳者やろう者と出会い、それでもなお共通の物語や経験を共有

することができた。発表やワークショップはこのテーマを様々に反映していた。会議の冒頭、デブラ・ラッセル博士による基調講演、通訳者とろう者の協働とコミュニケーションだった。この講演が実際週末の調子を決めた。太平洋諸島の共同体からも通訳者の養成に関わる道のり、課題、そして主導について話を聞いた。2つめの基調講演はナイジェル・ハワードで、ろうであること、多様性、そして我々の役割がいかによりろう者がろうとしての自我を保持していくかについて、我々の役割がいかに大切かというすべての人々に関わる話だった。実習と新しい通訳者の振り返りの技術を開発することとニュージーランドにおける成功したメンタープログラムの例に関する発表があった。他の発表は法廷通訳、凍ったテキストや詩的言語の通訳、難民との作業やカトリック教会での場面の通訳のようなオセアニアの通訳者がよく経験する場面での通訳に関するものだった。優れた会議のように、教育、娯楽、そして社交がバランスよく設定した。金曜の夜にはカクテルパーティーがあった。参加者が出会い、挨拶をし、名前を交換しあるいは旧交を温めることができた。土曜の夜にはナンディ湾での美しい日の入りクルーズに出かけた。日が沈むのをじっと見ながら、酒をすすったりしゃべったりした。おいしいピュッフェ形式の夕食の後、フィジーの文化的な踊りと生の募金オークションを楽しんだ。昼間は地元の芸術家が我々の仕事の側面をとらえて、その絵がオークションにかけられ、太平洋諸島の通訳者が2019年WASLIパリ大会に参加するための資金となった。幸運にもおよそ50人の太平洋諸島(フィジーを含む)に住む人々やろう指導者が会議に参加する費用を賄える額を得た。我々のスポンサーの寛大な支援がなかったら、こんなに多くの代表団は来なかっただろうし、社会的なイベントも



こんなに盛り上がらなかっただろう。我々を支援して下さった皆様、とりわけ会議の共催をして下さったSLIANZやASLIA、地元のパートナーに感謝します：フィジーろう協会、フィジー手話通訳者協会、そして太平洋障害者フォーラムです。この国で第1回のWASLIオセアニア会議を開催しようとしたことは地元フィジーの通訳者にとって大きな意義がありました。あるフィジーの通訳者が最近私にこう言いました：「会議はフィジーにとって良いカンフル剤でした。国際ろう週間のお祝いはもう私たちが何年も経験したことがないようなものでした。これはすべて会議をフィジーに持ってきたからです。太平洋地区へのご支援ありがとうございます。」

会議はオセアニア地域以外の人々にもインパクトがありました。ある参加者は言いました：「ろうと聴両方の通訳者のこんな見事な協働、そして全オセアニア地域の共同体代表は今回を最高の会議体験にしてくれました。こんな真に驚くべき体験にかなうものはない気がします。多くの前向きな議論や行動が世界のこの地域で起こっていました。会議に続いて太平洋諸島の通訳者のためだけに2日間のワークショップを開きました。実用的なもので、チームやグループで作業をし、倫理、役割に焦点を当てるグループのニーズに合っていました。」

両日とも終わりに太平洋地域のろう指導者が私たちと話しあい、両方のグループはこの地域の将来の発展のゴールや期待を共有することができました。発表者のレイチェル・マキー、アラン・ウェンツ、デラ・ゴスウェル、デブラ・ラッセルそしてデイビッド・マッキーにお礼申し上げます。地域会議は非常に大切だと思います。異なる経験、教育、文化的背景、を持った異なる人々を一堂に会することは、全ての人々に関連があるプログラムを作らなければならなかったことを意味するのです。太平洋地域の代表団に関連のある話題に特別の焦点を当てたかったのです。なぜなら、彼らの大部分にとって、今回が初めての通訳者の会議だったからです。彼らの多くにとっては今回が初めての通訳者訓練だったのです。「この会議は太平洋地域の代表団に大きな影響を与えました。我々はより自信に満ち、鼓舞され、志を強く持ってこの地を去りました」この意見を読むと心温まります。ソーシャルメディアのおかげでフィジーの参加者間で始まった協働とコミュニケーションはまだ今でも続いています。通訳者として我々は大洋の真ん中の「島」ではなく、地球規模の共同体なのです。パリでの2019年WASLI会議で地球の通訳者共同体が会うときにまたお会いできるのを楽しみにしています。アー待ち遠しい！

ショートニュース

北アメリカ地域

前号以来、北アメリカの協会はRID地域4会議をニューメキシコ州のアルバカーキで行ってきました。メキシコでの通訳者養成、教育、資格試験の機会が少ないことを話し合いました。メキシコはもっと多くの通訳者の現任研修を求めています。メキシコでの指導者・講師に興味があるなら、WASLIの地域代表リズ・メンドーサに連絡してください。
northamerica.wasli@gmail.com

メキシコでのワークショップ

法廷通訳に焦点

2018年11月13日—15日にメキシコ市(CDMX)で法廷通訳者のワークショップを行います。メキシコ政府が、メキシコろう者組合(UNSM)及びメキシコ市ろう者協会(COPESOR)と共同で実施し、金曜日はろう参加者向け。WASLI会長デブ・ラッセルが発表者の一人です。

アメリカ手話通訳者協会の会議

アメリカでは夏の間地域会議を5つ行いました。WASLI北アメリカ代表のリズ・メンドーサがワシントン州バンクーバーでのRegion5の会議に出席し、ニューメキシコ州アルバカーキでのRegion4の会議に先立ってWASLI北アメリカ対面会議を開催しました。次の全国会議はロードアイランド州のプロビ

デンスで2019年7月7日~11日に開催するとRIDは最近発表しました。

通訳者の指導者の隔年会議

CITの隔年会議がユタ州のソルトレイクシティ(<http://www.cit-asl.org/new/conference/>)で開かれました。今年には会長のレスリー・グリアがさらに多くの国際的な参加及び通訳を呼びかけました。一つを除いてすべてのワークショップが、アメリカ手話で行われ、ろう通訳者のチームが国際手話に通訳してくれました。海外から28人の参加がありましたが、うち10人は日本からの参加で、自分たちの通訳者を連れていました。驚くべき体験でした。下に2つのインタビューを載せました。CIT会長レスリー・グリアと国際手話通訳者クリス・テスターです。

ヨーロッパのろう移民

ドーフ・フランデレン、フランドルろう連盟(ベルギー)はろう移民のために新しいウェブサイトを開きました。ろう者のための移住について役立つ情報が掲載されています。オランダ、フランドル手話、英語、国際手話の4か国語で、移民の権利と義務、移住の全過程について明確な情報を提供しています。さらにフランダースへ移住したろう者に光を当てたドキュメンタリーを提供しています。ウェブサイトはこちら
<http://www.doofenmigratie.be/en>

ヨーロッパ地域

ヨーロッパ代表はefslの理事でもあったが、このたび退任しました。クリストファーはヨーロッパとの関わりにより焦点を置き、できればさらに多くのヨーロッパ地域の手話通訳者協会に会員になるように働きかけができればよいでしょう。課題の一つはヨーロッパ内での支援の多くはefslのネットワーク内で起き、WASLIはその仕事を重複したくないことです。

38の手話通訳者協会

ヨーロッパ地域には38の国別手話通訳者協会があり、その多くが多言語会員を持ち、特定のWASLIの書記言語ネットワーク・グループ(フランス語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、ロシア語など)で活動しています。これはヨーロッパと世界の間での支援、互いの情報の共有、通訳者の発展につながるでしょう。2019年は会議の年だから、各国協会が年ごとの会員を継続してほしいですが、会員数が大幅に増えてほしいですね。

WASLI副会長のペルー訪問

ジョゼ・エドニルスン・ジュニオールがリマを訪問

WASLI地域代表イザベル・レイが同行して会議や訓練のワークショップに参加

去る9月に WASLI 副会長ジョゼ・エドニルスンと WASLI ラテンアメリカとカリブ海地域代表イザベル・レイ・クレメンテがペルーのリマを訪問して、パネッサ・フロレス・リナレスが会長を務めるペルー手話通訳者協会 (ASISEP) の支援を受け、政府および非政府機関と面会するなどいくつかの予定をこなしました。最初の会合はASISEP会長、パネッサ・フロレス・リナレス、そしてペルーの教育省代表としてフランシスカ・チオンとテレサ・チャベス、資格、評価、機能そして倫理綱領を含む教育場面における手話通訳者の役割について述べました。

9月14日、彼らはペルー共和国議会の障害者のためのインクルージョン・コミッション・アドバイザーのヘスス・エスピノーザと会談した。この会談の目的はテレビにおける手話通訳者の基準を規制する手話通訳者のサービス向上、そして手話通訳者の全国評価基準を確立する助けとなる提案をすることだった。丸2日間、9月15日と16日、ジョゼ・エドニルスンは手話通訳者のために訓練ワークショップを実施した。彼によると、「これはとりわけ教育場面でろう者に質の高いサービスを提供するために、手話通訳者の技術を向上させることを目的とする信じられないほどの知識交流が経験できました。」

9月17日にジョゼ・エドニルスン・ジュニオール、イザベル・レイ、そしてパネッサ・フロレスが「ヒポリト・ウナヌエ基礎代替教育センター」(ろう者のための高校)を訪れ、先生方や手話通訳者と話ができた。同じ日に彼らは

また、公選弁護人とつながりがあり、障害者の権利擁護と促進プログラムの責任者であるマレナ・ピネダ博士と会い、ペルーの公共サービスにおける質の高い手話通訳者の必要性を提案しました。翌日9月18日に、彼らはペルー教育省の代表者、ソニア・アスキューとセシリア・テノリオと会談しました。この会談の目的は、ペルーの手話通訳者の職業化を目指すカリキュラムの策定につながる提案をするためであり、これには手話通訳者の資格と評価を定義する提案も含まれています。養成プログラムと手話通訳者及び盲ろう通訳者の職業の開発担当者もこの会議に出席していました。最終日の9月19日に彼らは障害者のインクルージョン全国協議会 (CONADIS) と会談した。彼らはCONADISの登録研究長官サロモン・アメリコ・ベラスケス及びそのチームと会話をした。この会談で触れる機会となった話題は、公共の場での通訳サービスとプライベートなサービスの確立、手話通訳者の具体的な機能、そして手話通訳者の認識などです。この1週間 WASLI とASISEPは手話通訳者の仕事と職業的発展を推進するためにいくつかの公共または民間の組織と何度も会議をした。「まだラテンアメリカとカリブ海地域の WASLI 代表をしていた8年前初めてペルーを訪問して以来、この国はろう者に向けての公共政策と手話及び手話通訳者の認識において進歩している。それはうれしいし、今後もっと多くの進歩があるだろう。我々WASLIはいつでも彼らを支援する。」とジョゼ・エドニルスン・ジュニオールは言いました。



コロンビアのろう者の状況に関する第7回全国会議

FENASCOL(コロンビアろう連盟)とFENILC(コロンビア手話通訳者連盟)がコロンビアのろう者と手話通訳者のために統合



去る10月8日から13日まで、コロンビアのろう者の状況に関する第7回全国会議がボゴタ市で開催されました。会議は1週間にわたり、様々な活動やイベントがあり、コロンビアろう者の権利、ニーズ、そして将来の目標が明らかになりました。会議の枠組みの中で、3つの連続するイベントが行われました。第2回コロンビア手話通訳者の会、ろう者の全国フォーラム、そして言語計画に関する第3回シンポジウムでした。全国から180人以上のろう者、通訳者、大学教授、および専門家、スペインろう者連盟の代表、そしてブラジル及びボリビアからのゲストが参加しました。WASLI ラテンアメリカ及びカリブ海地域代表イザベル・レイが出席して彼らを支援しました。このイベントはろう者と聴者両方の参加者に大きな影響を与えました。「ろう者と聴者両方の通訳者がい

かに力を合わせて仕事できるかを見ることはろう社会にとって非常に重要だった。」とコロンビアのカリブ海地域の若いう指導者、エデル・ゴンゴラは言いました。

第7回会議はコロンビアろう連盟(FENASCOL)と、コロンビア手話通訳者ガイド連盟(FENILC)のおかげで組織されました。以下の分野で大いなる進歩を遂げることができました。この職業のための倫理綱領をFENASCOLとFENILCが共同作成、ろう協会の強化、ろう者の権利を守るリーダーシップ、通訳者の評価と資格認定、が政府と共同で実施された(INSOR全国ろう協)、市民協会(FENASCOLとFENILC)、ろう通訳者の役割と機能、政府と市民からなるコロンビア手話言語的計画全国協議会の創立です。

WASLIアジア地域会議

名誉会長リズ・スコット・ギブスン、バンコクでWASLIを代表出席

2018年12月11日-14日、アジア地域はタイのバンコクで会議を開きました。

名誉会長リズ・スコット・ギブスンがWASLIを代表して出席しました。22人が参加しました。(アルファベット順に)インド2人(オブザーバー1人)、インドネシア2人、日本2人(オブザーバー3人)、韓国2人、マカオ2人、ネパール2人、タイ2人、ベトナム2人、WASLIアジア地域代表代行宮澤典子、そして国際手話通訳者1人。リズは会議に加えて研修を提供しました。

他の地域と同様、地域の広さと言語や文化の多様性がコミュニケーションを困難にしています。この地域は訓練と情報共有を増やすこと、そしてWASLIに参加する国協会の支援を熱望しています。国際手話による会議の全要約はWASLIのフェイスブックやHPを訪れビデオを見てください。



イラン・イスラム共和国に於けるWASLIのはたらき

WASLI名誉会長

リズ・スコット・ギブソン

WASLI 会長デブラ・ラッセルは、イランろう NGO 協同ネットワークが主催する会議から招待を受けましたが、出席できないため、私は喜んで彼女の代わりに WASLI を代表して、会議に出席してきました。大会宛に送られたデブラの挨拶ビデオは大変暖かく受け止められました。

「関心と結束を高めよう」というタイトルの今大会は、2018年8月6-10日にタブリーズ市にあるタラ・ヴァダット大学で行われました。内容は、イラン手話 (ZEI) とろう文化、手話言語学、手話通訳、ろう児の教育と人権、ろう団体への支援及び運営の仕方、UNCRPD とうろう人権などでした。

この大会に国内から 800 人が参加しました。主にろう/盲ろうコミュニティの方でした。(制限がなかったら参加者数はもっと増えたでしょう。) 大会関係者には、イラク、クウェート、インドからのろう代表たちの他にも、教師や家族、通訳者もいました。開閉会式には政府の官僚たちもみえました。イランの専門家たちとともに、ベルリンにあるフムボルド大学のクリスチャン・ラスマン教授もゲスト講演者として出席しました。さらに、素晴らしい文化的な演出もいろいろありました。この場を借りて、特にろう通訳者アーダヴァン・ギューティ(現在ギャローデット大学手話言語学の博士課程に在学中)や、彼のろう同僚アリ・サンジャビ、アリ・ファリディ(ギャローデット大学で手話通訳を勉強中)にお礼申し上げます。彼らが一所懸命にイラン手話と国際手話の通訳をやっていたいただいたお陰で、私とラスマン博士は積極的に参加することができました。

大会の要請に応じて、私は「手話通訳の発展」、「専門的な手話通訳者とは」、「通訳時に於ける倫理的振る舞い」をテーマにプレゼンを行いました。

さらに、タブリーズ市のイスラム市議会議長や市長、障害者団体の代表たち、テヘラン市厚生局の責任者とも会議も行いました。「イラン現状の再調査」に引き続き、2017年5月に発行した UNCRPD 委員会総合観察報告について、話し合うことができました。この報告書には、ペルシャ手話に対する認識不足や地域手話通訳者の不足、イラン政府から裁判手話通訳実施要綱の作成依頼などの記載がありました。もう一つの公式勧告書には、政府側は「ペルシャ手話を公式言語に規定し、学校の中にも用いるべきだ。また、ろう者団体と連携し、通訳サービスの質を認証する仕組み及び手話通訳者に対する持続可能な養成課程を確立すべき……」とも書いてあります。イランは 2022 年に現状の再調査を行う予定です。

実際、今のイランには正規な手話通訳者養成訓練がなく、その都度その都度のワークショップしかありません。有償雇用もなければ、通訳の役割に対する認識も欠如しています。州立福祉機構は、補聴器や人工内耳の取り付けに莫大なお金を投資しているのに、通訳者養成制度や通訳サービスの開発に関する予算は全くないようです。ろうコミュニティと現役通訳との間で、度々報告されているのは、通訳スキルのレベルや、利害の衝突、倫理言行の適当性などです。イランろう NGO 協同ネットワークは手話通訳者協会の設立には積極的です。テヘランの私立の高

等教育機関を立ち上げ、手話通訳者を養成することは可能なのかについて、すでに議論をしています。人材派遣や指導方法、認定制度、費用などに関しては、もっと詰めていく必要があるでしょう。大会に出席し、働いていた通訳者たちは、自分たちのための単独なワークショップ・セッションがないことにごっかりしていたようです。私は以前、このようなワークショップ・セッションを受けたことがあります。しかし、今回のような規模の大きい大会は、スケジュールが詰まっていた、様々な両者会議が実施されるため、彼らの要望に答えることができませんでした。その都度その都度の議論の場を設けることしかできませんでした。

通訳者の間では素晴らしい約束や情熱が溢れていました。イランろう NGO 協同ネットワークも、彼らや WASLI 及び WFD との協働に意欲を見せています。また、ラスマン博士はイラン手話通訳者 2 名に対して、必要なビザが取得できれば、2019 年 WASLI パリ総会に出席できるよう支援すると約束してくれました。たいへんありがたいです。

自分の世界や課題に集中することは簡単です。しかし、我々にはイランのような同僚がたくさんいることを忘れてはいけません。われわれと共に最高の仕事を追求していこうと彼らは望んでいます。2019 年のパリ大会で彼らと再会するのを楽しみにしています。



ヨーロッパ手話通訳者フォーラム(Efsli) 《手話通訳～水面下のハザード》

WASLIとEfsliロシア手話通訳者を協同支援

Efsli 会議《手話通訳～水面下のハザード》は、WASLI 及びロシア手話通訳者協会 (RASLI)、ろう研究とバイリンガル教育のガリナ・ザイトセバ・センターの共催のもとで 2018 年 10 月 26-27 日にモスクワで開催されました。172 名の出席者の中で、ロシア手話通訳者協会の会員 45 名を含め、モスクワ国立言語大学(未来の通訳者)の学生たちや、ロシアの 12 地域、リトアニア、タジキスタン共和国などの通訳者及びリーダーたちが出席しました。ロシア連邦の地域からは、ブリヤート共和国の首都ウラン・ウデや、シベリアの中心都市ノヴォシビルスク、チェリヤビンスク市、オムスク市、ペルミ市、イジェフスク市、タタールスタン共和国の首都カザン、ニジニ・ノヴゴロド市、トゥーラ市、ヴォロネジ市、カレリア共和国の首都ペトロザヴォーツク、ダゲスタン共和国の首都マハチカラなどから代表がみえました。ロシア連邦労働社会福祉大臣から大臣署名の公式書面が届き、広報委員会の(盲ろう者のための)連盟基金所長がモスクワ政府を代表して挨拶を行いました。言語大学の学長及び科長が 1 日だけ出席しました。出席の前日に VOG 会長に選ばれたスタニスラフ・イワノフは 2 日間も出席し、20 分間の挨拶をしてくださいました。出席者の 30%はろう者でした。5つの短いプレゼンを含め、20 編の論文が発表され、発表者の 8 名がろう者でした。基調演説者は Efsli 会長イバナ・ブッコ(セルビア)、ソフィア・イサリ(ギリシャの EfsliID)、クリスチャン・ラスマン博士とクリスチャン・ピーターズ(ドイツのフンボルト大学)及び(WASLI のリトニア代表)アルナス・ブラジンスカスでした。WASLI 会長デブラ・ラッセルはビデオで挨拶をし、クリストファー・ストーン博士(UK)はビデオ論文を 2 編送りました。

大会のタイトルは意図的に付けられました。なぜなら、今回の主旨は、手話通訳に存在している見える課題と見えない課題及び可能な解決策について、議論をしてもらうのが目的だったからです。新入りの通訳者及び国際経験の少ない通訳者にとって、多言語に携わる通訳団体そのものが一番よい例でしょう。ロシア語—英語

や、ロシア手話、ドイツ手話、国際手話などの同時通訳がよく行われているようです。盲ろうの出席者のための通訳 2 名を含め、全部で 14 名の通訳がこの 2 日間に一所懸命働いてくれました。

大会の出席者は、2016 年以來 WASLI 会員であるロシア手話通訳者協会(RASLI)に対する支援について議論し、合意に至りました。近い将来、efsli に加入していただきます。RASLI は 2016 年から WASLI の会員です。Efsli は RASLI の出席者に対して、ロシア国内の学校やワークショップ、セミナー、カンファレンスなどでもっと素晴らしい通訳活動やサービスができるよう、支援していくつもりです。特殊教育や司法場面、医療現場、盲ろう通訳などの場面において、手話通訳に特別な注意が向けられるべきだからです。

大会が終わった後、セミナー「ろう通訳者:その過去・現在と未来—WASLI の視点」にろう者と健聴者約 40 名が参加しました。このセミナーの主催者はアルナス・ブラジンスカスでした。

このような手話通訳を中心とする国際大会は、ロシア国内では初めてのことでした。ロシアの

手話通訳への影響及び今後の影響はいろいろあるでしょう。全ロシアろう共同体が 2005 年にモスクワで手話通訳者大会を主催しました。2007 年及び 2014 年の大会では、「ろう者の言語権利」という手話通訳に関するセッションも設けられました。Efsli/WASLI のモスクワ大会は、地域的な孤立状態から最初の一步であり、通訳レベル及びサービスの向上に大きな希望を与えたと思います。この大会の開催日が、10 月 31 日のロシアの「全国手話通訳者の日」に近かったこともあって、とてもよい話になりました。

最後に WASLI トランスコーカサス基金に感謝いたします。最近組織されたばかりのタジク手話通訳者協会のリーダー、ゼボ・ビジエバを招待していただきました。彼女は大会に参加し、タジキスタンの現状について、短いプレゼンを行いました。



レスリー・グリア

全米手話通訳指導者会議議長

メール president@cit-asl.org

レスリー・グリアのリズ・メンドーサによるインタビューのASL版の全インタビューはこちらでご覧になれます。
http://youtu.be/kUI7j_WOJV0

リズ: こんにちは! CITの議長レスリー・グリアさんにくつかが質問したいと思います。

レスリー: 待って。みなさん、こんにちは! 今日はお招きいただきありがとうございます。

リズ: お時間を割いていただき、ありがとうございます。総会では引っ張りだこで、たいへんお忙しいのに、改めてお礼申し上げます。総会のご感想は?

レスリー: すばらしかったです! 前回のポートランド総会からプレゼンの形を変えました。CODAや多様な方々も仲間に入れたし、人々の焦点をもっとハイレベルの学術的及び研究方面に移行させる時期が来たと感じ、大成功でした。

リズ: そうですね。私は面白いワークショップに色々参加しました。たいへん勉強になりました。CITが総会で国際手話通訳者を使ったのは、今回が初めてだったでしょうか。それとも前回のポートランド大会で既に使っていたのでしょうか。通訳チームについて、お話を聞かせてください。

レスリー: CITは長年、音声言語通訳サービスを提供してきました。しかし、音声言語通訳から国際手話通訳に切り替える必要があったと感じました。WASLIとWFDの総会の結果です。また、殆どの国際会議はアメリカ手話を使われていませんから、我々もこの考えを取り入れるように決めました。これらの新しい試みから様々な反発が起きています。だけど、私の考えとしては、もっと若い方々や、多様な出席者、もっとたくさんのろう者が参加してもいいと思います。

リズ: その通りです! ASLのプレゼンを見るのか、国際手話通訳を見るのか選択肢があるのはいいですね。すばらしいことです。レスリー: この試みはたいへんでした。アメリカで誰が国際手話に熟練しているのでしょうか? つまり、通訳学習プログラムに、アメリカ手話とや英語だけでなく、もっと国際手話を取り入れる必要があると思います。本当に増えてほしいです。

リズ: 本当ですね。学習側の視野が広がると思います。ところで、海外からの総会出席者数はどのぐらいでしたか。

レスリー: 登録者は30名ほどいましたが、いろんな事情で、実際は28名になりました。

リズ: 参加者は全部で何名でしたか。

レスリー: 約350名でした。

リズ: 登録者全体の約10分の1というわけですね。

レスリー: そうです。もともと36名はあったと思います。今は28名に減りました。

リズ: たくさんあってよかったですね。次の質問です。レスリーさんは来年のパリ大会に参加しますか。

レスリー: もちろんです。4年前、いいえ、3年前のWASLI総会にあなたも私も参加しましたね。そこで、たくさんの方々からどれだけの刺激を受けたのか、今でも覚えています。アメリカにはよい大会もありますが、WASLIのほうがもっと超えています。マヤ・デ・ウィットさんに会った時、CITのことを知っているかと聞いたことがあります。彼女は、以前ミネソタに住んでいて、CITのことも知っていると言っていました。CITは聴者のためのものだ、クリスティーナ・ラスマンさんは思っていたようです。聴者とろう者の両方のためのものと、私は説明しま

した。また、通訳プログラムは遅れています。ヨーロッパでは、まず翻訳技術に始まり、逐次通訳、そして最後には同時通訳を学びます。アメリカでは、全くの逆で翻訳についてはほとんど学びません。この学習過程を変える時期に来ています。クリスティーナさんは4年前にケンタッキー総会でプレゼンしたし、マヤ・デ・ウィットさんは今年発表しました。その時のWASLI総会に参加していなかったら、私たちも昔のままだったと思います。ですので、われわれの総会に有益な刺激を与えてくれたWASLIに感謝しています。WASLIのパリ総会に絶対参加したほうがいいと、皆さんに話します。

リズ: お時間をいただき、たいへん感謝しております。総会期間中にたいへんお忙しいのに、本当に有難うございました。

レスリー: こちらこそ有難うございました。

レスリーとリズ: 皆さん、愛していますよ!



WASLI対面式定例理事会

WASLIオセアニア大会に先立って、WASLI理事がフィジーのナンディに集まって、2日間の打ち合わせを行いました。

WASLIの全理事が出席し、アンジェラ・マーレイ(オセアニア地域代表)、リズ・メンドーサ(北米地域代表)、ナイジェル・ハワード(ろう通訳アドバイザー)及びミシェル・アシュレー(WASLI総会2019議長)も同席しました。

これからのWASLIの活動やプロジェクトについて議論し、地域代表や各部から報告を受けました。次回の対面式定例理事会はパリで行う予定です。



FESF

国際教育改革サミット(WISE)の開催者であるカタール財団は、WISEアワード2018をパキスタンのプロジェクト「テクノロジーに基づくろう教育」に贈ると発表しました。WISEアワードは毎年、世界中の教育機関を対象に6つの改革プロジェクトに贈られています。

このプロジェクトは、ファミリー・教育サービス財団(FESF)のデフ・リーチ・プログラムの一環であり、パキスタン国内のろう教育を改善するのが目的です。最新の科学技術を活用し、パキスタン手話(PSL)のさまざまなデジタル学習教材を無料でろう児に関わる全国の学校やコミュニティに提供しています。これらの教材は、最初の5000語パキスタン手話辞書や、多くの生徒や教師が活用できるチュートリアル及び読み書きプログラムが含まれています。

デフ・リーチ・プログラムの設立者でCEOのリチャード・ゲリー氏は、このプログラムを設立する経緯をこのように説明

してくれました。「パキスタンのろう児は、十分なサービスの受けられず発言権もないマイノリティで、彼らにとってパキスタン手話言語教材は彼らの需要に合わせて制作したものです。パキスタンのろう児の中で、学校に通い読み書きできるようになるのは5%以下です。女の子では割合はもっと低いです。多くの児童は、社会に忘れられ、雇用に見合う能力も生活の質を改善する資質も十分に持ちあわせることができません。」

WISEアワード2018の授賞式は9月22日にニューヨークで開催する予定です。受賞者は厳しい評価基準に基づき選出されています。対象プロジェクトは実践中のものであり、革新的な教育プロジェクトとして個人やコミュニティ、機関などで実績が認められていなければなりません。その上、経理管理がしっかりして、将来像が明白し、発展可能性及び再生可能性も重要な要素です。



WFD-WASLI国際手話認定制度諮問委員会

WFD

世界ろう者連盟WFDと世界手話通訳協会WASLIがWFD-WASLI国際手話認定制度諮問委員会(WFD/WASLI-ISAAB)を共同設立したことを発表します。WFD-WASLI認定国際手話通訳者4名に委託し、国際手話認定制度を監督していただきます。このメンバーは、クリストファー・ストーン博士、キャロル・リー・アキュライン女史、リズ・スコット・ギブソン女史及びクラーク・デンマーク氏の4名です。ISAABメンバーの任期は4年(2019-2022年)です。

ISAABの役割:

WFD/WASLI-ISAABは、認定国際手話通訳者の増加を目的として、認定通訳者について、WFD/WASLI理事会ならびにWFD事務局のアドバイザー及び監督役を務めます。

WFD/WASLI-ISAABの義務:

- WFD/WASLI理事会及び/またはWFD事務局のエキスパート的なアドバイザーとして、担当職員に適切な指導を行わなければならない。(現時点ではWFD/WASLI国際手話通訳者認定制度を担当するのがWFD

事務局です。)

- WFD事務局に対して、WFD/WASLI認定国際手話通訳者の管理について支援を行う。
- WFD/WASLI理事会に対して、国際手話通訳者認定制度に関わる一般事務のみならず、制度の方針や実施要項などを分析し、改善できるように提言する。

WFD/WASLI-ISAABの務め:

- WFD/WASLI国際手話通訳者認定制度の実施材料や実施方法を見直し、効率のよい制度へ改善させ、理路整然とした制度に仕上げるためのアドバイスをする。
- 認定条件や試験形態、評価基準、結果の発表方法などを定める実施方針を策定する。
- 管理運営上の諸問題についてアドバイスする。
- 認定制度の今後のあり方(フィーダーについてなど)について、アドバイスをする。

WFDおよびWASLIは、国際手話通訳者のレベルを向上させ、世界各国でのハイレベルなイベントで通訳活動に携わり続けていけるよう、無償にサポートしてくれるメンバーの皆さんに感謝いたします。

Under the High Patronage of
Mr Emmanuel MACRON
President of the French Republic



XVIII WORLD CONGRESS
of the World Federation of the Deaf
PARIS 2019

第18回WFD世界ろう者会議inパリ

SIGN LANGUAGE RIGHTS FOR ALL

手話言語の権利をすべての人に

23-27 July 2019

Palais des Congrès de Paris

2019年7月23-27日

開催日を忘れずに
SAVE THE DATE

Online registration is open:
Do not miss the early bird fee deadline:
15 January 2019

オンライン登録はすでに始まりました
早期登録料の締切日は
2019年1月15日

www.wfdcongress2019.org

Follow us @wfd2019



Organized by:



Under the patronage of:



Institutional partners:



Platinum Sponsors:



Gold Sponsors:



Silver Sponsor: ALSF

EVENTS イベント情報

アイスランド

第9回国際ろうアカデミック&研究者大会
首都レイキャヴィク
2019年5月11-13日
<https://www.dac2019.com>

日本

クリティカル・リンク9
東京
2019年6月14-16日
<https://criticallink.org>

カナダ

手話言語習得国際学会
トロント
2019年6月17-18日
<https://wasel.org/conference/2019/06/toronto/icsl>

スウェーデン

第8回メディアと国際学会
ストックホルム
2019年6月17-19日
<https://www.tolk.su.se/english/media-for-all-8>

EFSLI 定期総会&大会

マリモ
2019年9月7-8日
<http://efsl.org/2019/>

USA

ろう難民会議
ロチェスター
2019年6月20-23日
www.reachoutdra.org

フランス

CODA 2019
パリ
2019年7月11-14日
<https://coda-france.org/conference-coda-2019>

WASLI 大会

パリ
2019年7月17-20日
www.wasli.org

第18回WFD世界ろう者会議

パリ
2019年7月23-27日
www.paris-wfd2019.org

ドイツ

TISLR13 - 論理手話研究学会
ハンブルク
2019年9月26-28日
<https://www.idgs.uni-hamburg.de/en/tislr2019.html>



HONOURING THE PAST
TREASURING THE PRESENT
SHAPING THE FUTURE
過去を敬意を 現在を大切に 未来を形に

PARIS, FRANCE

15-19 JULY 2019

フランス・パリ
2019年7月15-19日

WFD世界ろう者会議パリ大会は、WASLI総会に出席する手話通訳の方々に2大会登録制を提供します。WFD大会にもぜひ参加してください。手続きの順として、まずはWASLI総会にご登録ください。その後、メール(inscriptions.wfd2019@gmail.com)でWFDの運営者に連絡し、割引コードをもらって、WFD大会にご登録ください。登録時にはWASLI総会2019の登録証明を添付する必要があります。

この会報に掲載の見解は必ずしも世界手話通訳者協会の見解を表しているものではありません。

編集者: WASLI執行部および外部からの協力者でWASLIニュースレターを作成しています。

WASLIは提供する情報が正当なものであることを保証します。投稿された文を編集する権利を有しています。

WASLIは掲載内容および意見の正しさは保証の責を追いません。掲載された情報の転用の際は引用をつけてください。

WASLIの公式画像を使用する際の許可申請、またメールアドレスの変更連絡は、secretary@wasli.orgまで。

WASLI理事

理事: デブラ・ラッセル(会長)、ジョゼ・エドニルソン・ソーザ・ジュニア(副会長)、イサベル・ヘイエリック(事務局長)、スーザン・エマーソン(会計)

地域代表: アンジェラ・マーレイ(南洋州オセアニア)、ナターシャ・マリコ(アフリカ)、梅本悦子(アジア)、デサンカ・ジジック・(バルカン)、イサベル・レイ(ラテン・アメリカ/カリビアン)、リズ・メンドーサ(北米)、イゴール・ボンダレンコとアンナ・コモロワ(南コーカサスと中央アジア)、クリストファー・ストーン(欧州)、ヘルド・アルショワール(アラブ地域連絡窓口)

WASLIボランティア

ろう通訳アドバイザー ナイジェル・ハワード
会員コーディネーター ヘザー・ショアズ
ソーシャル・メディア・コーディネーター スザンヌ・エーリック
翻訳コーディネーター 不在
国際手話通訳コーディネーター スティーヴン・サレンシー
ウェブ バトリック・ウィチエ、バトリック・ガラソ
会報編集 ジョゼ・エドニルソン・ソーザ・ジュニア、リズ・メンドーサ
基金促進委員会 クリス・グルーム、ビビ・グラシー・モールド
教育ビデオ制作 シモーネ・ショール

FOLLOW US



www.wasli.org

CONTACT US

WASLI Office
7/211 Wellington Street
Collingwood Victoria 3066 -
Australia



WASLI

World Association of
Sign Language Interpreters